

自動車用材料シンポジウムー高強度化の限界を探るー

地球温暖化防止のためのCO₂排出量の抑制や衝突安全性向上のため、自動車用鉄鋼材料の高強度化、軽量化は益々重要な問題となってきた。しかし高強度化を進めるほど鉄鋼材料の製造上、使用上に多くの課題が発生する。これらの課題は自動車会社、鉄鋼会社がそれぞれのニーズ、シーズを交換し、親密な討議を重ねることによって解決策が見出されよう。今回、鉄鋼協会と自動車技術会が共同で自動車用鉄鋼材料全般について「高強度化の限界を探る」というテーマの下に、一日シンポジウムを行うことになった。会員の方々の出来るだけ多くの参加と討論を期待する。

1. 日 時：平成5年10月18日(月) 9:30~16:00
2. 場 所：名古屋工業大学
(日本鉄鋼協会第126回秋季講演大会会場)
3. 共 催：(社)日本鉄鋼協会(幹事学会)、(社)自動車技術会
(企画)：自動車用材料共同調査研究会
4. プログラム：開会挨拶
境界領域委員会委員長：岸 輝雄(東 大)
午前の部 座長：武智 弘(福岡工大)
◎ 基調講演 9:30~10:20
「最近の自動車を取り巻く環境と自動車用材料」
城井幸保(三菱自工)
(1) 講演 10:20~10:50
「ボディー・シャーシ用鉄鋼材料の現状と課題」
佐野 実(富士重工)
(2) 講演 10:50~11:15
「自動車用高強度熱延鋼板」
木下正行(N K K)
(3) 講演 11:15~11:40
「自動車用高強度冷延および電気めっき鋼板」
小山一夫(新 日 鐵)
(4) 講演 11:40~12:00
「自動車用高強度溶融垂鉛めっき鋼板」
坂田 敬(川 鉄)
(5) パネルディスカッション 12:00~12:30
午後の部 座長：遠藤孝雄(横 国 大)
(1) 講演 13:30~14:00
「エンジン・駆動系鉄鋼材料の現状と課題」
萩原好敏(本田技研)
(2) 講演 14:00~14:25
「自動車用高強度棒鋼」
中里福和(住 金)
(3) 講演 14:25~14:50
「自動車用高強度線材」
芦田真三(神 鋼)
(4) 講演 14:50~15:10
「自動車用高強度鋼管」 山本三幸(住 金)
(5) 講演 15:10~15:30
「自動車用高温高強度ステンレス鋼」
植松美博(日 新)
(6) パネルディスカッションとまとめ 15:30~16:00
5. 問い合わせ先：
(社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 上村一郎または植田紀代子
TEL(03)3279-6021 FAX(03)3245-1355

欧文会誌ISIJ International 投稿規定・執筆要領(和文版)

この度、欧文会誌分科会でISIJ Internationalの投稿規程和文版を作成いたしました。ISIJ Internationalは、会員、非会員を問わず、どなたでも投稿できる論文集で、世界60か国以上に配布されています。論文発表の有効な場として、ISIJ Internationalへの投稿をお勧めします。

投稿規定

1. 投稿資格
本会会員、非会員を問わず、広く国内外の著者からの投稿を受理する。
2. 投稿原稿の内容
 - 1) 鉄鋼材料を中心に、その他各種材料の生産プロセス、性質、特性評価、応用に関する学術ならびに技術の発展に寄与するもの。
 - 2) 他の学協会誌などの刊行物に発表されたことのないもの、あるいは本誌掲載以前に発表される恐れのないものに限り、ただし、「鉄と鋼」に掲載されてから2年を経過してないもの、および本会の研究会等の報告書に掲載されたものの英訳原稿は投稿できる。
 - 3) 全ての原稿は英文で書かれたものでなければならない。統一性があれば、スペリングやタイトルは英語でも米語でも構わない。
3. 原稿の種類
原稿は以下の4種類とする。原稿の種類は審査の結果、変更を要する場合がある。
 - (1)Regular Article (刷り上がり10ページ以内)
学術ないし技術上の未発表の知見や成果を記述し、その内容の客観性を論証したもの。
 - (2)Review
一つのテーマについて、既発表の研究や資料を総合的に集録・紹介し、読者に有益な情報を与えるもので、欧文会誌分科会からの依頼を原則とする。ただし、著者からの申し込みが分科会で認められれば投稿できる。
 - (3)Communication (刷り上がり3ページ以内)
速報価値のある発見や成果を要領よくまとめたもの。審査および掲載に際し優先性が与えられる。
 - (4)Note (刷り上がり3ページ以内)

(a)ISIJ International誌に掲載された論文などに対する意見、例証、反証などを述べたもの。

(b)新しい生産技術や研究を簡明に紹介したもの。

(c)読者に興味あるトピックス、意見、提案などを述べたもの。

4. 単位

単位は国際単位系(SI)を用いる。ただし、SI併用単位は使用することができる。(詳しくは、「鉄と鋼」執筆要領を参照のこと)

5. 投稿の手続き

1) 原稿

下記の①から⑩(Noteの場合は、④と⑤は不要)を完備した正原稿1通、副原稿1通を提出する。副原稿の写真は、鮮明で良質なコピーでもよい。

①Application Form (表紙、本会所定のもの)

②和文要旨 (400字以内)

③Title page

④Synopsis (英文要旨, 250語以内)

⑤Key words (数語)

⑥本文

⑦References

(⑧Appendices)

⑨Captions

⑩表、図

2) 原稿送付先および連絡先

〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階

(社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 欧文会誌係

TEL 03-3279-6021 FAX 03-3245-1355

6. 原稿の受付

投稿された原稿が本会に到着した日を受付年月日とする。ただし、投稿規程および執筆要領記載事項が守られていない原稿は受け付けない。

7. 受付後の取扱い

原稿は欧文会誌分科会において審査し、掲載の可否を決定する。審査の結果、修正・加筆・削除などを著者に依頼することがある。著者は修正箇所等を説明した回答書および旧原稿を添えて、修正稿1部を再提出する。依頼日より3か月を過ぎて再提出されたものは、原則として新規投稿とみなされる。欧文会誌分科会が掲載可と決定した日を受理年月日とする。

8. フロッピーディスクによる原稿提出

印刷の正確を期すため、掲載可となった原稿のフロッピーディスクを提出することが望ましい。詳細は掲載決定通知とともに著者に連絡する。

9. 校正

掲載が決定した原稿は、著者校正を1回行う。この際、印刷上の誤り以外の修正・加筆・削除は原則として認めない。

10. 原稿料

依頼原稿の著者には、本会の規定により原稿料を支払う。

11. 著作権の帰属

掲載された記事の著作権は、受付年月日から本会に帰属する。

12. 別刷り

別刷りは有料とする。

執筆要領

1. 原稿の長さ

原稿の種類別に投稿規程に定められた刷り上がりページ制限を厳守する。字数換算の目安は以下の通りである。

①刷り上がり1ページは約1000語。

②図は通常84mm幅に納まるように印刷される。110mm×84mmの図は250語に相当する。

2. 原稿書式

原稿は、A4判の用紙に上下・左右に十分余白をとって、ダブルスペースでワープロ (またはタイプ) 打ちする。

1) 1ページ目は**Title page**とし、表題、著者名、各著者の所属機関と住所を明記する。

2) 2ページ目には**Synopsis** (250語以内) および**Key words** (数語) を記述する。ただし、Noteにはこれらは必要ない。Synopsisには、目的、方法、重要な結果などを簡潔明瞭にまとめる。

3) 本文は3ページ目から始める。章、節、項、小見出しの記号は、下記の要領に従って表記する。

章	1.	2.	3.
節	1.1.	1.2.	1.3.
項	1.1.1.	1.1.2.	1.1.3.
小見出し	(1)	(2)	(3)

4) Referencesは本文中の引用箇所^{1), 2, 3), 4-6)}のように、上付き通し番号を付けて示し、本文中の最後にページを替えて番号順にリストする。Referencesのスタイルについては、最近のISIJ International誌を参照されたい。

(例)

1) S. Nakamura and T. Terashima: *ISIJ Int.*, **33** (1993), 402.

2) N. Sano, D. J. Min and T. Wakasugi: *Proc. of 6th Int. Iron and Steel Cong.*, ISIJ, Tokyo, (1990), 279.

3) W. C. Leslie: *The Physical Metallurgy of Steels*, McGraw-Hill, New York, (1981), 621.

4) U. F. Kocks, A. S. Argon and M. F. Ashby: *Progress in Materials Science*, Vol. 19, ed. by B. Chalmers, Pergamon Press, Oxford, (1975), 210.

5) 表、図の**Captions**は、Referencesの後にページを替えて一括してリストするとともに、それぞれの表・図にも貼付する。

6) 表は**Table**、図と写真は区別することなく**Figure**として統一し、それぞれ通し番号を付け、本文原稿右余白にその挿入位置を記入する。

(a) TableおよびFigureは、1つずつA4判の用紙に書き込みまたは貼付し、右下隅に著者名を記入する。

(b) 図は製版に直接使用できるように明瞭に作成する。通常の図は84mm幅に縮小印刷されるので、文字の大きさ等に注意されたい。

(c) 写真はスケールを記入し、厚手のA4判の用紙に貼付する。複数の写真よりなるFigureの場合は、各々の写真を(a), (b), ……のように示し、写真同士はスペースを設けずに密着させて貼付する。

(d) カラー写真は欧文会誌分科会で認められたものに限り、著者の実費負担により掲載できる。